



一般社団法人コンセンサス・コーディネーターズ 代表理事

桑子敏雄

〒158-0082 東京都世田谷区等々力4-18-9 秀和等々力レジデンス602号
Tel:090-6030-3028 Email:consensus2014@gmail.com



一般社団法人コンセンサス・コーディネーターズ代表理事 東京女子大学特任教授 東京工業大学名誉教授

1951年7月25日 群馬県生まれ

東京大学文学部哲学科卒業、同大学院人文科学研究科哲学専修課程博士課程修了、東京大学文学部助手、南山大学文学部講師、南山大学文学部助教授、ケンブリッジ大学古典、学部 Visiting Scholar, ロビンソン・カレッジ Visitor, Bye-fellow、東京工業大学工学部助教授、東京工業大学大学院社会工学研究科教授、フランス国立社会科学高等研究院客員教授、大連大学客員教授などを歴任。東京工業大学名誉教授。2018年、東京女子大学現代教養学部コミュニティ構想専攻特任教授に着任。

博士（文学）（東京大学）

これまでの活動のなかで、「地を這う哲学者」「さすらいの哲学者」「まちづくり賑わい復活の仕掛人」「合意形成のプロフェッショナル」などと呼ばれています。

思想と実践

高度経済成長期の20世紀後半、豊かであった日本の自然が人間の行為によって崩壊してゆく現実に直面し、自然に対する人間の認識と行為の意味を探究するために、西洋哲学、中国哲学、日本哲学の研究を行いました。

『環境の哲学-日本の思想を現代に活かす-』（1999年、講談社）の出版を機に、行政（国土交通省、農林水産省、環境省、地方自治体）やNPO、市民活動と連携しつつ、市民参加による自然再生・環境再生と「社会的合意形成のプロジェクトマネジメント」の実践を進めました。

社会的合意形成の実践者の社会的意義を示すために、これまでの研究開発を社会実装するものとして、2014年に「コンセンサス・コーディネータ」の概念を創出し、「一般社団法人コンセンサス・コーディネーターズ（CCS）」を設立して、研究成果の社会還元を進めています。CCSによる事業は、社会的合意形成のプロジェクトマネジメントという仕事が日本の社会でビジネスとして成立するかどうを見定める社会実験でもあります。

CCSの仕事は、具体的には、国や都道府県、市町村などから日本各地で起きている対立・紛争を解決することです。とくに、社会基盤整備、具体的には、ダム建設や河川や海岸の再生・保全、道路整備やまちづくり、森林管理、地域づくりなどに携わり、地域がいわば負債として抱えているトラブル、対立・紛争の解決を目標に活動します。CCSチーム（CCSフェローズ）メンバーは、行政と市民の間に立つプロジェクトコーディネータ、プロジェクト・アドバイザー、ファシリテータなどを務めます。

2018年は、国土交通省宮崎海岸浸食対策プロジェクト・アドバイザー、広島県福山市鞆まちづくりビジョン策定支援業務、島根県出雲市神門通りワークショップ総合コーディネータとしてワークショップ支援業務、沖縄県国頭村景観計画策定支援業務、島根県隠岐の島町西郷港周辺のまちづくり支援業務などを担当しています。

著書

『エネルギー アリストテレス哲学の創造』（東京大学出版会、1993年）、『気相の哲学』（新曜社、1996年）、『空間と身体』（東信堂、1998年）、『環境の哲学』（講談社学術文庫、1999年）、『西行の風景』（NHKブックス、1999年）、『感性の哲学』（NHKブックス、2001年）、『理想と決断』（NHKライブラリー2003年）、『わたしがわたしであるための哲学』（PHP出版、2003年）、『風景のなかの環境哲学』（東京大学出版会2005年）、『空間の履歴』（東信堂）、『生命と風景の哲学』（岩波書店、2013年）、『社会的合意形成のプロジェクトマネジメント』（コロナ社、2016年）、『わがまち再生プロジェクト』（KADOKAWA、2016年）など。

桑子敏雄の主要著作

桑子の著作は、古典哲学研究からスタートしました。

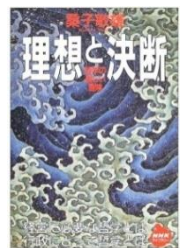
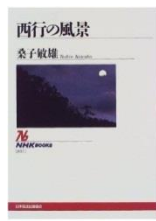
万学の祖、アリストテレスが自然研究と倫理社会の研究をどのように関連づけているかをテーマに、「エエルゲイア」の概念について考察を行ったのが『エエルゲイア アリストテレス哲学の創造』です。この著書で東京大学に学位申請し、博士（文学）の学位を取得しました。西洋哲学研究と平行して行ってきた中国



哲学の研究の成果は、『気相の哲学』にまとめました。この書では、中国の哲学者、朱熹（朱子）が人間と宇宙をどのように関係づけていたかを論じました。この本での中心概念は、人間の宇宙のなかでの存在を捉えるための「身体の配置」です。この概念は、さらに、空間的存在としての身体を中心にした人間論『空間と身体』のなかで考察しました。

身体的自己としての人間と環境としての空間との関係を捉える能力が感性です。空間と身体の相関の覚知能力としての「感性」について考察したのが『感性の哲学』です。

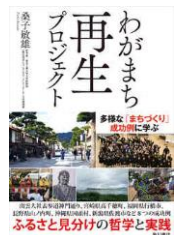
空間的存在としての人間をさらに深く捉えるために必要であったのが人間存在と時間との関係です。この関係についての着想を得たのが新潮社の雑誌『シンラ』での連載エッセイ「古代からの伝言」の執筆中でした。空間的存在としての人間は自己の有限な人生を超えてどう過去から未来への時間とつながっているかということ捉えるのが「空間の履歴」の概念です。人間は自己の履歴を空間の履歴のもとで蓄積するというこの発想は、わたしのその後の思索の原点になりました。わたしは、この概念によって人間と空間および時間との関係を捉えることができたと考えています。「古代からの伝言」は、のちに『空間の履歴』としてまとめました。



空間と自己との関係を捉える感性は、人間の知覚に現れる空間の相貌を捉える能力でもあります。人間によって捉えられた空間の相貌が「風景」です。風景の思想が日本の国土空間の理解の根幹にあるという視点から論じたのが『西行の風景』です。西行論というよりも風景論というべき本書で、わたしは、日本の空間に対峙し、その本質を和歌によって捉えようとした西行の思想に深く傾倒しました。環境への取り組みは、『風景のなかの環境哲学』『生命と風景の哲学』などにまとめました。また時空的自己存在としての人間理解は、『理想と決断』『わたしがわたしであるための哲学』などで論じています。

「空間の履歴」の概念を現代日本の環境問題解決への手がかりとして提案したのが『環境の哲学』です。1999年末に発表した本書を手にした旧建設省の大臣官房広報担当から本書の思想を政策提言してほしいという依頼を受けたときから、わたしの人生は大きく変化していきました。環境をはじめとする多くの問題をめぐって対立する行政と住民・市民との社会的合意形成の場面へと活動を移すことになったからです。21世紀になって、わたしの思索と活動は、日本の各地で展開することになりました。

西洋哲学と東洋・日本哲学の融合をめざしたわたしの学問的目標は、現場での実践と理論的考察との統合・融合です。こうした融合的な試みである社会的合意形成のプロジェクトマネジメントについては、



『生命と風景の哲学』『社会的合意形成のプロジェクトマネジメント』『わがまち再生プロジェクト』にまとめました。

東日本大震災とそれによる原発の爆発という事態について論じたのが『生命と風景の哲学』です。現在は、46億年の履歴の上に成り立っている人類の存在意味について、エコロジカルな視点とエコノミカルな視点との統合を論じることがわたしの仕事と考えています。